

学校と地域を「結ぶ」公民館活動の実践

霜川 正幸

A Practice of a Community Center for Linking
Schools and the Community

SHIMOKAWA Masayuki
(Received August 6, 2009)

キーワード：「つどう・まなぶ・むすぶ」、学校・家庭・地域社会の連携、ボランティア

はじめに

公民館は、図書館、博物館と並ぶ社会教育施設であり、「住民のために、実際生活に即する教育、学術及び文化に関する各種の事業を行い、もって住民の教養の向上、健康の増進、情操の純化を図り、生活文化の振興、社会福祉の増進に寄与する（社会教育法第20条）」ことを目的としている。そして、(社)全国公民館連合会は、その役割と機能を「つどう・まなぶ・むすぶ」と表し、「新しい世界に生きる人間の社会教育機関」としての充実に努めている¹⁾。平成17年度、全国には17,143館（設置率89.1%）があり、のべ2億1120万人の利用実績がある。山口県には263館（分館を含む）（設置率100%）が存在する²⁾。

筆者は、平成19年度より県東部B市A公民館の公民館運営協議会（公民館運営審議会）委員、事業推進委員として、また（社）山口県公民館連合会の研修指導者として、県内各地の公民館活動にふれてきた。その中で、市町教育予算、特に公民館運営予算の削減、公民館主事等職員の削減と委嘱、嘱託等勤務態様の変化や公民館の民間委託等を背景としながら、公民館主事や市町社会教育主事等が主導する公民館事業の衰退、特に地域づくりやネットワークづくり等現代的な地域課題に対するアプローチの停滞と、いわゆる「貸し館」を中心とする公民館の増加を感じてきた。上田による「公民館を中核としながら関連する諸施設と連携させて、システムとして地域教育の『有機的なネットワーク』を創り出すという方向で、施設主義から脱皮していく視点ももとめられている」に同意する³⁾。

近年、子どもたちの健全育成には、学校・家庭・地域社会がそれぞれの教育機能を果たしつつ相互に連携し、より一体的に取り組むことが必要と言われる。子どもたちの「生きる力」は学校教育でのみ身につけられるものではなく、地域人材、環境、施設等に恵まれた豊かな地域社会で身につくものも多いと実感している。

筆者は、今こそ公民館がその役割と機能を発揮し、青少年教育の推進として子どもたちに相対し、学校と地域の連携、ネットワークづくりや地域おこしを進めることが必要と考える。B市A公民館での「中学生ボランティア」の実践の一部を報告する。

1. A公民館の概要

A公民館はB市東部の文教地区に位置し、昭和53年度に設置された地区公民館（地区館）である。対象住民数6,300人、年間開館数357日、開館時間8:30～22:00で運営している。建物床面積470m²（情報提供・相談スペース15m²、和室73m²、青少年学校外活動スペース130m²、地域団体交流室33m²、図書コーナー15m²等）、図書蔵書数1,400冊、所有PC10台という施設状況である。職員の状況は館長（非常勤）1、公民館主事3（専任）で運営しており、公民館運営審議会委員を10人（内3人は地域外委員）有している。

A公民館の事業展開は大変積極的と言える。現在、B市内には33の公民館（分館を除く）があるが、利用件数、利用者数からも高いレベルにあり、年間利用件数は2,006件、総来館者数は27,759人を数えている。

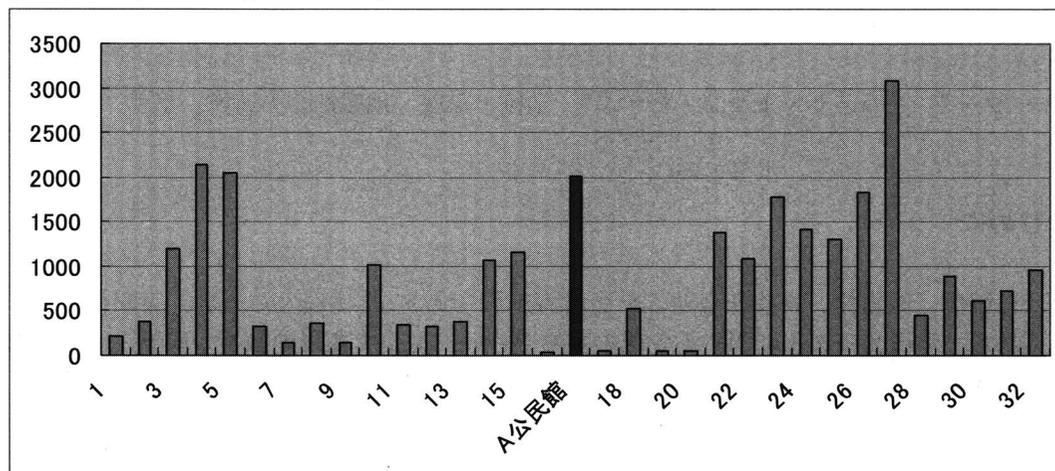


図1 A公民館の年間利用件数（縦軸は件数：平成20年度）

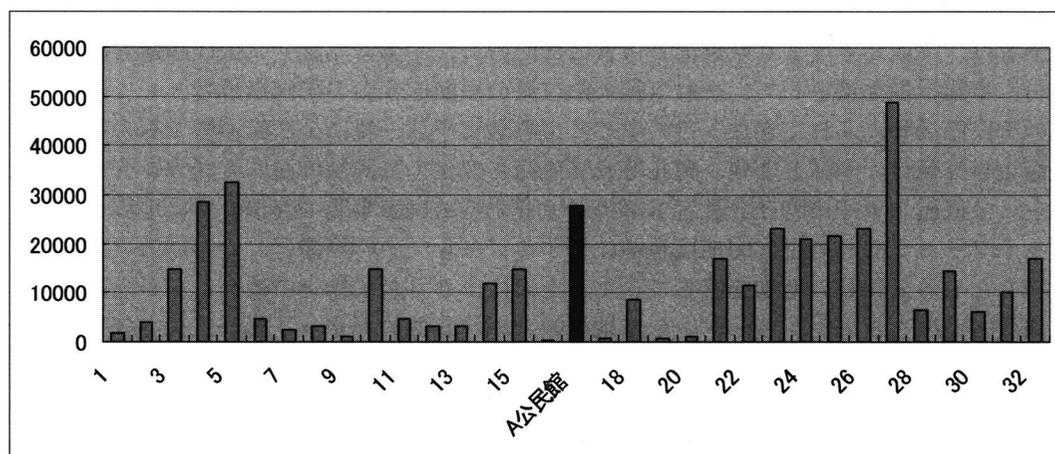


図2 A公民館の年間利用者数（縦軸は人数：平成20年度）

学級・講座種別を開催回数で見ると、絵画、将棋、生け花等「趣味・稽古」が88回と最も多く、「放課後子ども教室」や育児相談、子育てサロンや読み聞かせ等「家庭教育・家庭生活」が続く。安全・安心、防災・防犯、人権尊重、環境保護や独居老人の食事交歓会

等「現代的課題」に関する内容も年々増加しつつある。

参加者数では、独居老人の増加に伴う高齢者同士の間関係、ネットワーク形成の課題や、「振り込めサギ」や「ひったくり事案」の増加等による防災・防犯への対応から「現代的課題」を取り上げた講座に参加者が多かった。また育児相談、子育てサロン等家庭教育・子育てに関するニーズも高いことがわかる。

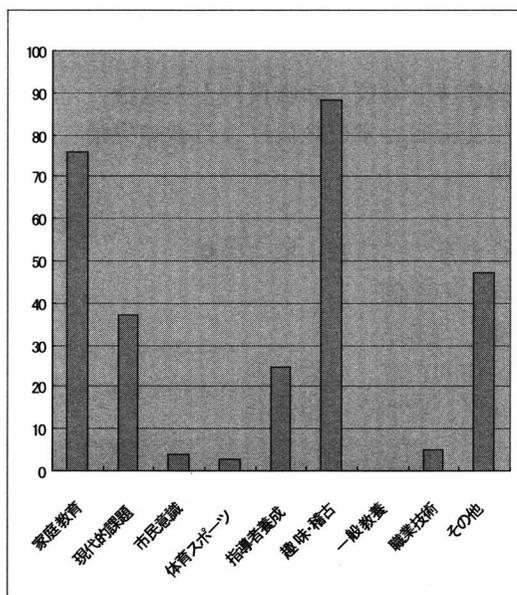


図3 講座等開催回数 (平成20年度)

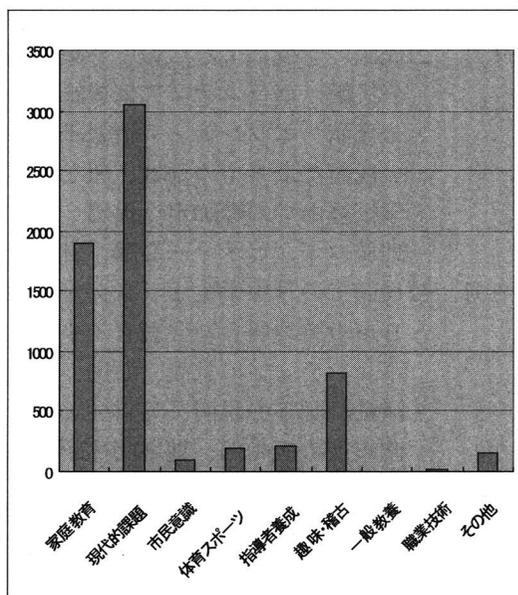


図4 講座等のべ参加者数 (平成20年度)

A公民館は、社会教育の指導経験豊富な公民館長と、フットワーク、ヘッドワーク、ネットワーク豊かな公民館主事により、積極的に青少年教育も進めている。地区内にあるC中学校との連携による生徒の健全育成事業に取り組み、学校と地域の連携、ネットワークづくりや地域おこしを進めるとともに、次代の地域の後継者を育てるべくボランティア活動をおとしたリーダー養成にも取り組んでいる。次項において実践を報告する。

2. 「中学生ボランティア活動」の実際

2-1 子どもたちと地域をむすぶ公民館のスタンス

地域には、子どもたちの教育や健全育成に積極的に活用できる教育資源が溢れている。子どもたちが地域に主体的に関わったり、地域活動に積極的に参画できる場面や機会を提供することが必要であり、その環境づくりは地域住民（成人）の課題である。

その際、A公民館は、公民館による一方的な環境づくり、条件整備による事業展開、活動推進ではなく、子どもたち自身に、自分と地域のつながりを感じさせ、今後の地域への働きかけ方、関わり方等を考えさせようとしているように見える。公民館は、年間を通じて子どもたちのボランティア活動を支援しているが、ここでは昨年度夏季休業中の中学生ボランティアの実践を報告する。

2-2 夏季休業等を利用した「中学生ボランティア活動」の実際

①実施に向けた準備等について（平成20年）

3月 公民館運営協議会

- ・平成19年度「中学生ボランティア活動」の総括と平成20年度計画案の協議
公民館（館長、主事）と学校（校長、担当者）による協議
- ・方針、活動計画、活動内容、役割分担、学校・地域行事との調整等

4月 公民館、学校による広報と募集の開始

- ・公民館「ボランティア情報紙」の原案作成と学校（教職員）との協議
- ・公民館「ボランティア情報紙」の全生徒配布と学校教員による参加奨励
- ・公民館だよりでの地域広報と意見収集
- ・学校経由での参加申込提出
地域コミュニティ会議、自治会連合会等での広報、協力依頼

5月 公民館での「中学生ボランティア開講式」の開催

- ・B市教育委員会社会教育主事（教員職）の講話
ボランティアの意義、原則、種類と具体的内容、心構え等
- ・活動計画等の説明、分科会ミーティング、質問会・相談会
昨年度の活動例、地域団体紹介、ボランティア保険手続き等

公民館運営協議会

- ・事業の進捗の報告と実施に向けた協議

6月 公民館での「ボランティアリーダー・ここにこ研修会」の実施（別項参照）

地区生涯学習推進協議会での事業紹介と協力依頼

7月 ボランティア活動の開始



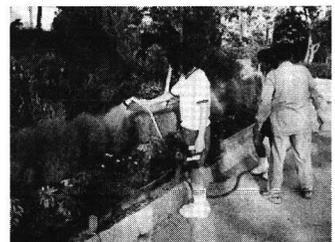
中学生ボランティア開講式



住民と夏祭りの会場づくり



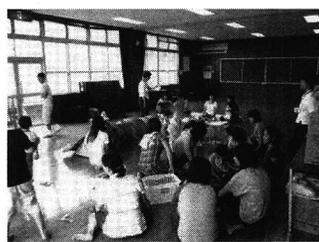
地域住民との協働、交流



花いっぱい運動の推進



スクールガードと美化活動



子育てサロンの運営補助

②活動の概要と参加生徒数等について（平成20年度）

活動日程、種類、概要と参加生徒数は次のとおりである。

月日	曜	時 間	種 類 ・ 概 要 等	人数
7.23	水	9:30～13:00	「地域子ども料理教室①」で小学生の活動を補助し支援する。児童との交流を行う。	3
7.27	日	7:00～ 8:30	地域住民と「夏まつり」会場の草刈り、清掃等を行い交流する。	7
7.30	水	9:30～13:00	「地域子ども料理教室②」で小学生の活動を補助し支援する。児童との交流を行う。	3
7.30	水	14:00～16:00	「夏まつり(バザー)」で販売する未使用品に値札等をつける。	11
7.30	水	17:00～18:30	地域住民と「夏まつり」の舞台設営を行う。必要な物品の運搬を行う。地域住民との交流を行う。	7
7.31	木	17:00～18:30	地域住民と「夏まつり」の舞台設営を行う。必要な物品の運搬を行う。地域住民との交流を行う。	14
8. 1	金	17:00～18:30	地域住民と「夏まつり」の舞台設営を行う。必要な物品の運搬を行う。地域住民との交流を行う。	13
8. 2	土	8:00～10:00	地域住民と「夏まつり」の会場準備（テーブル、イスの設置等）を行う。地域住民との交流を行う。	23
8. 2	土	16:00～20:30	「夏まつり」の当日ボランティアとして売店、クリーン係、抽選係、放送係等の用務を行う。	28
8. 3	日	8:00～11:00	地域住民と「夏まつり」の後片づけを行った後、地域住民との反省会を行う。	7
8. 5 ～29	平 日	17:00～18:00	老人クラブ会員とグリーンベルトの水やり、除草等を行い、「花いっぱい運動」に参加する。	10
8. 5 ～29	週 4	16:00～17:00	公園等で遊ぶ幼児、児童の地域見守り活動を行うとともに、クリーン作戦を実施する。	5
8.27	水	9:30～13:00	「地域子ども料理教室③」で小学生の活動を補助し支援する。児童との交流を行う。	5
8.29	金	10:00～12:00	未就園児や親等と読み聞かせ、紙芝居、自由遊び等を行い交流する。	12
12.24	水	13:30～15:30	「子どもビーズ教室」で小学生の活動を補助し支援する。児童との交流を行う。	5
計15回				153人参加

③活動の成果と課題

参加した生徒の「感想」を一部紹介する。ボランティア活動の意義、地域活動や体験の重要性、地域の豊かな人間関係にふれることの意味、人権尊重や共生、共存の心構えや地域づくりの意識の芽生え等が感じられる。

初めてボランティア活動を体験させてもらえて大変うれしく思っています。ボランティア活動に参加したいと決意したのには訳があって、今年の夏は何か違ったことをしてみたかったのでチャレンジしてみました。夏まつりと言えば、今までは自分が楽しませてもらっている方側であり、祭りを支えてくれている人たちの何か役に立てたらいいなと思ったのです。

実際にはうまくいかなかったことも多いのですが、「スマイル」を心がけたり、小さい子には「何にする？」と優しく声をかけることもできて達成感を感じました。

この体験を生かし、将来は人の役に立ち、人と接する仕事に就きたいと思っています。私はあんなに「ありがとう」のありがたさを感じたのは生まれて初めてでした。「ありがとう」と言われるから頑張れる、そんな行為がボランティアなんだなあと思いました。もっとボランティアの機会を増やし、私のようにボランティアが楽しいと思ってくれる人が一人でも増えたら嬉しいです。

私は夏休みのボランティアがとても楽しかったです。毎日行っていると花がだんだんと成長しているのが分かり、やり甲斐もできました。

老人クラブや公民館の方々の気づかいもうれしかったです。私たちのためにお茶を用意してくださったり、一人一人に声をかけてくださり、みんなも喜んでいました。いつもは家と学校の行き帰りばかりで、〇〇地区の方々や生活のことに気づくことがありませんでした。でも、多くの方々に囲まれて生活できていることに気づき、うれしかったです。私たちにもまだできることがあるように思い、みんなで考えてみようと思いました。また機会があればボランティアに参加したいと思います。ありがとうございました。

事後に行ったアンケート（自由回答式）の結果を紹介する。

問「今までに参加したことのあるボランティア活動があれば教えてください。」については「特になし」9人、「地域の清掃活動」と「夏まつりの手伝い」各2人となり、その他「公園の落書き消し」「自然の家の補助」等であった。ほとんどの生徒は地域におけるボランティア経験が無いが、「感想」が示すように早い時期に体験させることにより他者や地域に対する主体的な関わり意識や市民性が芽生える可能性が高く、環境づくり、条件整備の重要性が課題と言える。

問「今回の活動に参加しようと思った動機、きっかけを教えてください。」については、「友だちに誘われた」9人、「ボランティアに興味があった」6人、「人の役に立ちたい」2人、「楽しそうに思ったから」2人となり、他は「学校での奉仕活動から」「興味のあるボランティアの内容があったから」「祖父の誘いによって」「昨年やっていた先輩が、また夏まつりボランティアをしているのを見て」「昨年やってみて、またやりたいと思った」「ボ

ランティアで知ること、学ぶことは多いと思うから」「今までやったことがないから」等であった。中学校の「道徳」「特別活動」や「総合的な学習の時間」等でボランティア活動について学ぶ中、その実践化に対する興味関心は高いものがある。周囲からの働きかけや経験の共有は重要であり、活動経験者の経験談等にふれさせることも重要であろう。

問「今後やってみたい活動があれば教えてください。」としては、「色々な行事に参加して、地域の方々と交流を深めたい」4人、「地域の役に立つこと」3人、「夏まつりや運動会」3人、「小さい子どもとのふれあい」3人となったが、その他として「お年寄りのお手伝い」「海でのゴミ拾い」「多くの世代の人がふれあえるようなボランティア」「出来ることを出来るだけ」「海外での活動」等があった。いずれも、地域の人々に積極的に関わり、多様な交流活動をとおして、地域における豊かな人間関係づくりや地域課題に取り組もうとする姿勢が芽生えつつあるように見える。このように学校や家庭以外、広く地域全体に目を向けさせることは、様々な個性や違いを有する人間の存在を肯定的に認め、自然、生活、文化や伝統技能等多様な地域の教育資源とのつながりを自己の学びに生かすことを可能にするであろう。

青森県立平内高等学校は、「社会の一員として生活するためには、互いに助け合い、協力し合う心、思いやりの心が必要であり、そこに奉仕の精神が生まれてくる。」とし、「地域の自然環境、社会環境の中で、ともにあり・ともに生きて自己実現していく場を与え、思いやりの心や助け合い・支え合いの精神に目覚めさせていくことが有効な方策」と述べる⁴⁾。A公民館も、そのスタンスで、ボランティア活動をとおした学校と地域の連携、ネットワークづくりや地域おこしにかかる事業を展開している。

3. 「ボランティアリーダー養成」の実際

3-1 ボランティアリーダー養成に向けた取組の実際

「ボランティア活動」について、岡本は「人々が自己の持つ能力、労力、財などを社会に役立てる活動であること。そしてその活動を行うに際して、自分がその気になったの『自発性』と、他からの対価を求めないつもりでの『無償性』と、その行いが社会の幸せづくりに役立つという『公益性』という三つの条件を伴う活動のこと」と規定している⁵⁾。

同時にボランティア活動は生涯学習活動でもある。学習（実践）成果の還元も当然の欲求でもあろう。生徒も初めてボランティア活動に参加した際には不安、戸惑い、失敗や軽い挫折を味わうであろうが、先輩たちから支援を受けながらの実践に学習があり、満足感や自己有用感、自信や意欲を得ながら、自己表現という形で後輩を育て、自らも磨き高めていくのである。

A公民館では、生徒同士の教え合い、高め合いと生徒自身のスキルアップを図るため、平成20年度より「ボランティアリーダーにこここ研修」を実施している。実践の一部を報告する。

①研修の概要と参加生徒数等について（平成20年度）

活動日程、種類、概要と参加生徒数等は次のとおりである。

月日	曜	時 間	種 類 ・ 概 要 等	人数
6. 28	土	10:00～13:00	開講式、ボランティア指導者による講話「君がい ないと始まらない」、安全安心に関する訓練等	9

8. 9	土	9:00～11:30	A F P Y体験、人間関係づくり演習	9
9. 13	土	8:30～13:00	「敬老の日」記念行事でのボランティア、指導者演習	7
12. 6	土	14:00～16:00	全国子ども会連合会「読み聞かせリレーション」大会運営に向けた準備	2
12. 7	日	10:00～17:30	全国子ども会連合会「読み聞かせリレーション」大会運営	5
1. 26	月	17:00～18:30	「地区文化祭」中学生実行委員会として企画、計画立案、協議等	6
2. 9	月	17:00～18:30	「地区文化祭」中学生実行委員会として企画内容の検討等	5
2. 28	土	13:30～15:30	「地区文化祭」中学生実行委員会として企画、計画、準備等	5
3. 7	土	13:00～15:30	「地区文化祭」中学生実行委員会として会場設営、準備、リハーサル等	4
3. 8	日	9:30～16:00	「地区文化祭」中学生実行委員会として運営協力	11
計10回 63人参加				

②研修の成果と課題

参加した生徒の「感想」を一部紹介する。

(開講式)

世界は広い。友だちに自慢したくなる位楽しく初めてだらけのお話を聞きました。世界を歩いておられる〇先生のお話は日頃聞いたり体験したりできないことばかりでした。友だちにも話してみようと思いました。

(A F P Y体験)

これを知っていたらみんなの人気者になれるのでは？というものでした。友だち同士でやってみるのも楽しい仲間づくりのゲームがたくさんありました。ドンドン経験して、自分たちで仲間づくりをしていきたいと思います。学校でもクラスが雰囲気悪い時もあります。クラスの人間関係づくりをやりたいと思いました。

(敬老の日記念行事ボランティア)

会場準備やお弁当の用意に本当に忙しい1日でした。が、地域のおじいちゃん、おばあちゃんから喜びの声をたくさんいただくことができました。来年は中学生全員がこのボランティアに参加したら良いと思います。そのために私たちがどういう準備をしたら良いのか、みんなで考えておきたいと思います。

(読み聞かせリレーション)

本の読み聞かせのやり方や気をつけることなどを教えてもらいながら、イベントのお手伝いをしました。子どもたちのお世話をしたり、前日にはバルーンアートも体験しました。子どもたちの笑顔が最高でした。

本年度からの新たな取り組みであったが、生徒たちは、今後の単発ボランティアの企画

案作成、地域活動の企画検討や年度を振り返っての総括研修にも取り組んでいる。少人数ながら一人ひとりが意見やアイデアを持ち、相互に高め合う、教え合う姿も見られた。

まだ異学年での活動に乏しいため、下級生に教える中での学びや成長が実感できないているが、本年度以降の経験の蓄積と工夫改善を期待したい。加えて、「中学生ボランティアリーダーの養成」として必要な研修内容や研修手法の検討、連携できる関係機関・団体等のネットワーク化、バンク化等も課題として指摘しておきたい。

おわりに

筆者は、公民館は子どもたちに豊かな体験の場、機会を提供すべきと考える。自然体験、社会体験、生活体験、感動体験、我慢体験、内省体験等様々な体験活動は子どもたちに教育的で大きな効果を与えるが、公民館はそのコーディネート機能をフルに発揮すべきと考える。公民館に対する「逆風」が強まる今こそ、公民館長や公民館主事等公民館職員の姿勢と能力が問われ、「逆風」に背を向けることは子どもたちの健全育成、豊かな地域連携や元気のある地域づくり、まちづくり等の衰退を招くであろう。

本稿で報告したA公民館は、そうした危機意識に立ち、「中学生ボランティア活動」と「ボランティアリーダー養成」という事業の実施をとおして、生徒の豊かな人間性や地域と関わる力等を育てようとしている。

現在、公民館と連携してボランティア活動を行っている中学校、公民館や教育委員会と連携してボランティアリーダーの養成を進めている中学校は、県内にも多数存在し珍しくない。しかし、多くは学校教育充実の期待から公民館等を利用しているに過ぎない。地域づくりや生涯学習の拠点としての公民館がリーダーシップを発揮し、積極的に中学校等に働きかけ、結果的に学校や家庭等も恩恵を受けるような事業を展開しているところは少ない。

付け加える。A公民館の取組は、自らの公民館としての機能の強化、公民館職員の資質能力の向上にもつながっている。A公民館とC中学校は、事業方針の決定、計画の大まかな作成、滑り出しの事務処理や事業終了後の評価活動の段階では緊密に連携しているが、スタート後はほとんど関わらない。言わば、C中学校はA公民館に「丸投げ」し、A公民館は覚悟を決めて「丸投げ」される。生徒は非日常の人間関係の中で、学校や家庭にはない新たな学びを始めている。公民館職員は地域の子どもの生徒たちから、子どもの扱い方、支え方、教育的指導のあり方や地域との出会わせ方等青少年教育や地域教育の基本を学びながら、新たな学びのフィールド開発や生涯学習振興の創意工夫を始めている。公民館職員研修として成立しているように見える。

子どもたちに、学校に、そして地域全体に元気と活力を与える公民館に、今こそ「つど、まなぶ、むすぶ」機能の充実が期待されている。

文献

- 1) 社団法人：全国公民館連合会ホームページ，公民館の役割と機能，2002-2009，
http://www.kominkan.or.jp/zenko_komin/komin00.html
- 2) 社団法人：全国公民館連合会ホームページ，データで見る公民館，2002-2009.

- 3) 上田幸雄：地域社会教育の核としての公民館（日本社会教育学会編），成人の学習と生涯学習の組織化，講座現代社会教育の理論Ⅲ，207，2004.
- 4) 岡本 守：みちくさボランティア 青森県立平内高等学校（今野雅裕編），事例に学ぶ学校と地域のネットワーク，238，ぎょうせい，1998.
- 5) 岡本包治：生涯学習の推進とボランティア（岡本包治・結城光夫共編），学習ボランティアのすすめ～生涯学習社会をめざして，13，ぎょうせい，1995.